

今回は 音楽科の授業改善報告 です。

◇ 授業改善

対 象： 1年生 音楽選択者

科 目： 音楽 I

単 元： 諸外国の歌曲に親しみ、表現を工夫して独唱しよう

学習活動： イタリア歌曲（'O sole mio, Caro mio ben）、ドイツ歌曲（Heidenröslein）の曲にふさわしい発声、表現に必要な技能、言葉の発音に留意して歌い、イメージをもって音楽を形作っている要素の働かせ方などを試行錯誤しながら表現を工夫する。

◇ 授業改善の成果と今後の課題

『O sole mio』（ジョバンニ・カプツロ作詞/エドワード・ディ・カープア作曲）とは日本語で『私の太陽』と訳され、その歌詞は「太陽の輝きは素晴らしい。しかし、太陽よりも一層美しく輝かしいのは君だ！」と愛する人を思う気持ちをストレートに表現する歌です。前半は流れるようなメロディーで太陽の輝きを称賛し、後半は音域も高くなり、思う人への気持ちを熱く表現していきます。歌詞の内容とそれに付けられた音楽表現が絶妙であり、「生徒たちの音楽的な感受の深まりと歌唱表現の高まりが期待できる！！」と思いきや、期待に反した小さな声で、、、。「太陽よりも一層美しく輝かしいのは君だ！」などと高校生には恥ずかしく、いやいや私も恥ずかしい（笑）、この非日常的な熱い歌詞を、自分たちの言葉で訳すことで、詩の思いを自分たちの思いに少しでもリンクさせていくことができなかと考え、数分ではあったものの、自分たちの言葉で歌詞の意味を交流しました。あるクラスでは最後の発表で曲に向かう姿勢が変わり歌唱表現にも深まりが生まれ始めたことができました。歌い込む時間は自分が思っているものより必要であり、来年度はさらに「Ma n' atu sole」の歌詞の思いの強さ、中間の「' O sole 'o sole mio」部分のメロディーの音の変化の表現を目指し、より深く歌唱表現を追求していきたいと思いました。

外国の歌曲2曲目は『Heidenröslein』（フランツ・シューベルト）（ハインリヒ・ヴェルナー）同じドイツの文豪ゲーテの詩によるものです。歌ってみると曲想は全く違う、知性と感性の両方を働かせて表現したい曲です。イタリア歌曲に比べると少し発音し辛いことは想像ができ、1番のみ歌唱してきましたが、1番から通して3番まですべて歌うことで、この歌詞が持っているドラマについても楽譜と歌詞から想像し、言葉のリズムと音楽との関係を感じながら歌うことができるものだ自分自身も感じました。同じ詩からも二人の作曲者が見ている風景の違いや視点の違いについて（速度やリズムからもつかみながら）さらに交流できる時間を取ることを来年度への課題としたいと思います。（時間の都合でしっかり歌いこめなかったクラスもありました。）

また、この詩には100人近い作曲家が曲をつけており、多くの音楽家が「曲をつけたい」と感じるこのゲーテの詩の意味を各自が掴むことや、詩から得るインスピレーションは人によってこんなに違うと気付いた上でその多様性を尊重できる態度も育つ、とても良い教材だと感じることができました。そして「自分の音楽の視野が広がった気がする」とコメントをくれた生徒もおり、授業者として大変励まされました。